

総務常任委員会行政視察概要

令和元年8月9日（金）

於 藤枝市議会 第1委員会室

午前10時00分～午前11時55分

- 1 調査概要・説明…………… 藤枝市企画創生部 I C T推進室主幹
藤枝市企画創生部 I C T推進室主任主事

「I C Tで人の流れを呼び込むまちづくりについて」

藤枝市では、「I C Tで人の流れを呼び込むまちづくり」を以下の3つの柱で推進している。

①次世代人材育成として、切れ目のないI C T教育を行っており、小・中学校でのプログラミング学習に続き、高校生、大学生、社会人を対象とした養成講座を開催する、②新しい働き方の提案として、時間や場所に捉われない働き方を提案することで、子育て中の親や、介護離職者など潜在ワーカーを活用する、③地元産業の成長支援として、I C T導入個別相談、診断、コーディネートや、I C Tに係る勉強会を開催するなど、幅広い取り組みを進めている。

また、ソフトバンク株式会社と包括連携し、市内の全ての小・中学校でペッパーを活用したプログラミング教育が行われているほか、電子黒板（約500教室）とタブレット端末（約2,000台）が導入されている。ペッパーについては、161台全てをソフトバンクから無償提供を受けている。



2 主な質疑応答

問 事業を開始した経緯は。

答 ソフトバンクのペッパーが出回り始めた平成28年度に、藤枝市役所でこれを活用できないかという話があがった。ソフトバンクと協議をする中で、包括的協定を結ぶことで、まちづくりに生かせないかという議論になり合意形成をしてきたのがきっかけである。

問 藤枝ICTコンソーシアム（約120団体が参加）に係る市の役割は。

答 静岡産業大学が事務局を担っており、現状、市は後方支援が主な役割である。

ただ、国の地方創生交付金を利用して市からコンソーシアムに補助金（年間約1億円）を出していることもあり、事業の推進に当たっては互いに相談、協議を行っている。

問 「新しい働き方の提案」のためのクラウドソーシングに係る課題はあるか。

答 コンソーシアムが雇用しているディレクターが、仕事と市民（ワーカー）のマッチングを行うが、ワーカーのスキルを把握し分類している。また、仕事を受けることができるスキルを持った市民を育てる必要がある。現在、登録されている市民は約200人であり、1日2～3時間でできる仕事を求めている方が多い。

特に介護離職者や育児離職者に対して、選択肢を増やしていくことが重要であると考えている。

なお、市内企業には仕事を切り分けてアウトソーシングするという感覚がないため、これに対するコンサルティングも必要である。

問 昔ながらの市内の中小企業に対するアプローチは。

答 市内の中小企業に成長してもらうことで、市外への労働力、お金の流出を減らしたい。現在、地元を置き去りにするようなことがないようICTに関する教育、普及活動を行っている。ただ、市内にはIT関連企業はなく、この辺りが課題だと考えている。

問 ソフトバンクとの包括連携を行っているが、同社からの出向等の人事交流はあるか。

答 市として依頼はしたが、処遇の関係等により実現していない。ただ、市とソフトバンクの相互で研修は行っている。

以 上